

2022年3月期 第2四半期 決算説明資料

株式会社島精機製作所

2021年10月

2022年3月期第2四半期決算概要

(百万円)

	2022年3月期 第2四半期	2021年3月期 第2四半期	2021年3月期
売上高	15,814	10,126	24,489
営業利益	△1,558	△4,183	△9,143
経常利益	△844	△3,135	△7,273
親会社株主に 帰属する 当期純利益	△1,068	△3,208	△17,866

為替レート(円)	2022年3月期 第2四半期	2021年3月期 第2四半期	
ドル・円	111.92	105.80	期末為替レート(上段)
	109.98	106.96	平均売上レート(下段)
ユーロ・円	129.86	124.17	
	131.16	120.98	

ハイライト

事業概況

【横編機】

・アジア市場

中国では、国内市場向けに高付加価値商品のモノづくりにホールゲーム横編機の導入が伸長しました。また、韓国なども前期と比べ、設備投資が回復傾向となりました。

・欧州市場

イタリア市場では、経済活動再開に向け設備投資が活発となり、ラグジュアリーブランド向けの高付加価値商品を生み出すホールゲーム横編機などを中心に横編機の需要が拡大。

【デザインシステム】

・アパレルデザインシステムの「SDS-ONE APEX4」は、コンピュータ横編機の売上増加に伴い、販売台数が増加、サブスクリプションサービスのAPEXFizもライセンス契約数が伸長しました。

・自動裁断機「P-CAM」は、日本市場を中心に需要が回復しました。

7月、パターンメイキング・グレーディング・マーキング専用「APEXFizPGM」をラインアップに追加しました。

【手袋編機】

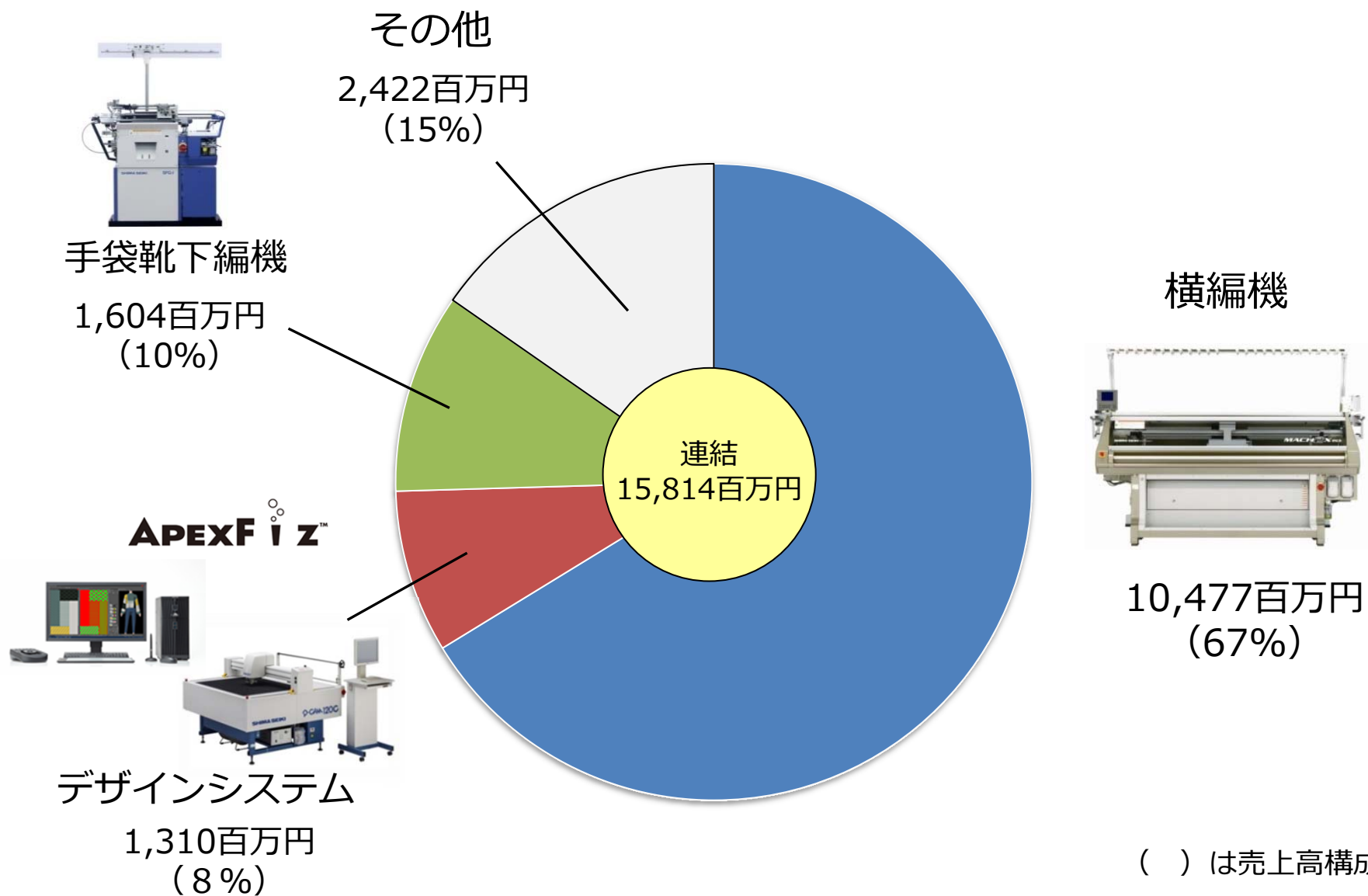
・日本、海外の大手ユーザーの設備投資が継続しました。

利益面

・工場操業度の改善により売上総利益率は回復傾向、販売費及び一般管理費の抑制に努めた結果、営業損失は15億58百万円となり、前年同期から減少しました。

(売上総利益率は前年同期比9.2ポイント増の34.4%に改善)

事業セグメント別売上高〔連結〕（第2四半期）



事業セグメント別売上高・営業利益（第2四半期）

(百万円)	売上高	前年同期比 (%)	営業利益	前年同期比 (%)
横編機	10,477	+67.9	860	—
デザインシステム	1,310	+56.3	362	—
手袋編機	1,604	+61.6	55	—
その他	2,422	+17.8	225	—
消去			△3,062	
合計	15,814	+56.2	△1,558	—

事業セグメント（横編機事業）

製品別カテゴリー



ホールガーメント横編機

- ・一着丸ごと立体的に編み上げる「MACH2XS」「SWG-N2」
- ・環境に配慮したモノづくりを実現
- ・ファッション小物・マスク製作等、ミニタイプも充実

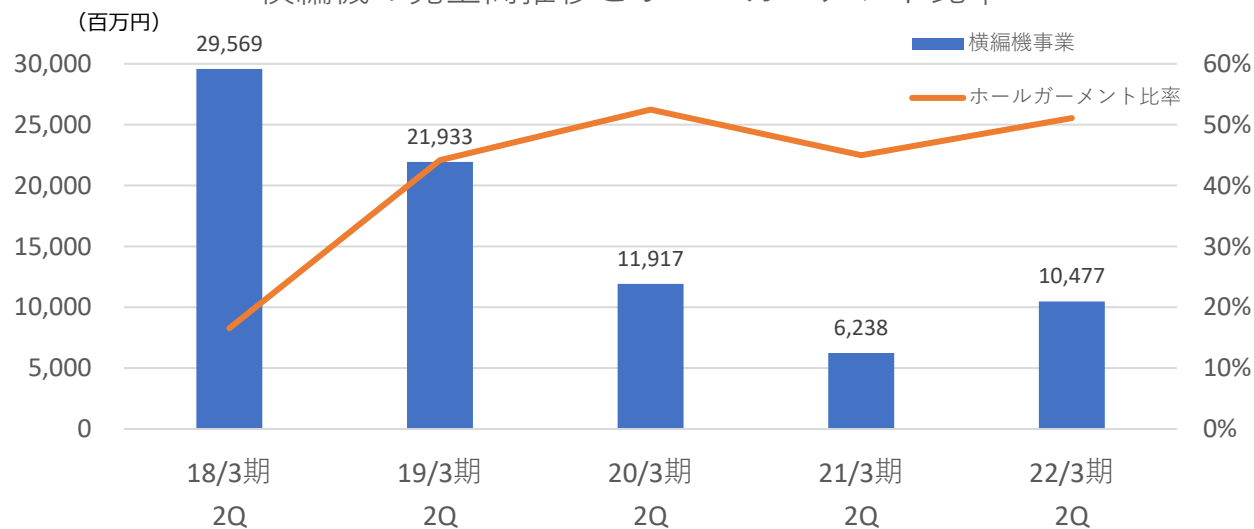


コンピュータ横編機

- ・パーツ毎に生地を編み、縫製・リンク作業で完成させる
- ・編地に付加価値を高める「SRY」「N.SIR」「N.SVR SP」「N.SVR」
- ・アジア等ボリュームゾーンの生産に用いられる「N.SSR」

ホールガーメント売上高比率が50%以上に

横編機の売上高推移とホールガーメント比率



事業セグメント（デザインシステム事業）

製品別カテゴリー



3Dデザインシステム「SDS-ONE APEX4」

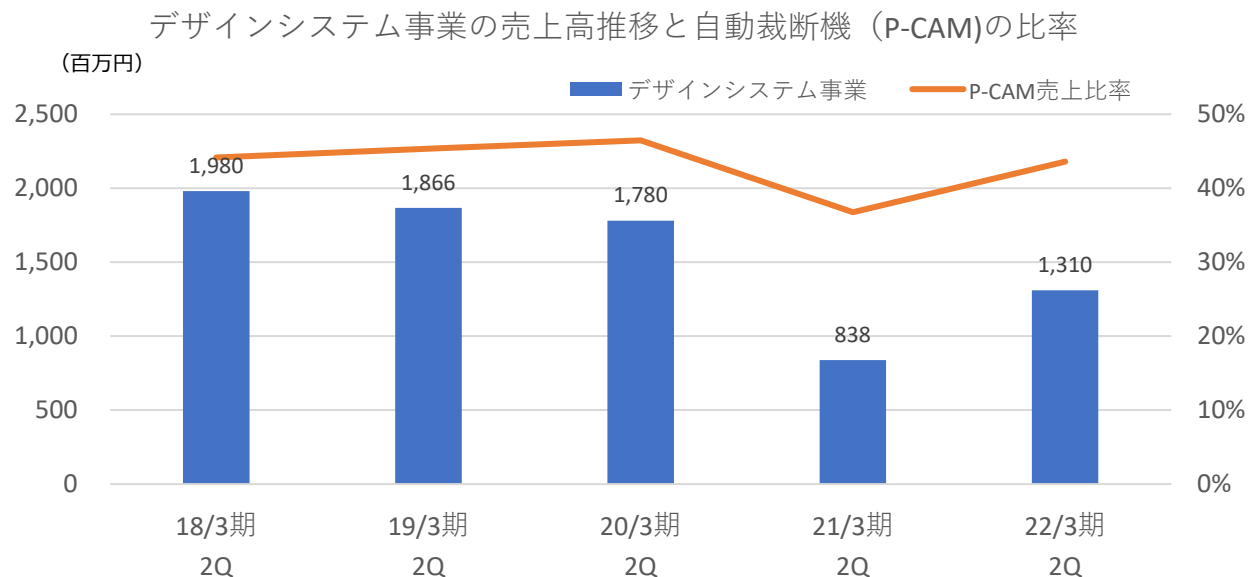
- ・編み機のプログラミング、パターンCADに加えて、横編み、織物、プリント、丸編みなどのテキスタイルデザインやシミュレーションに特化したソフトウェアを搭載
- ・APEXfizソフトウェアの販売を開始（2021/3～）



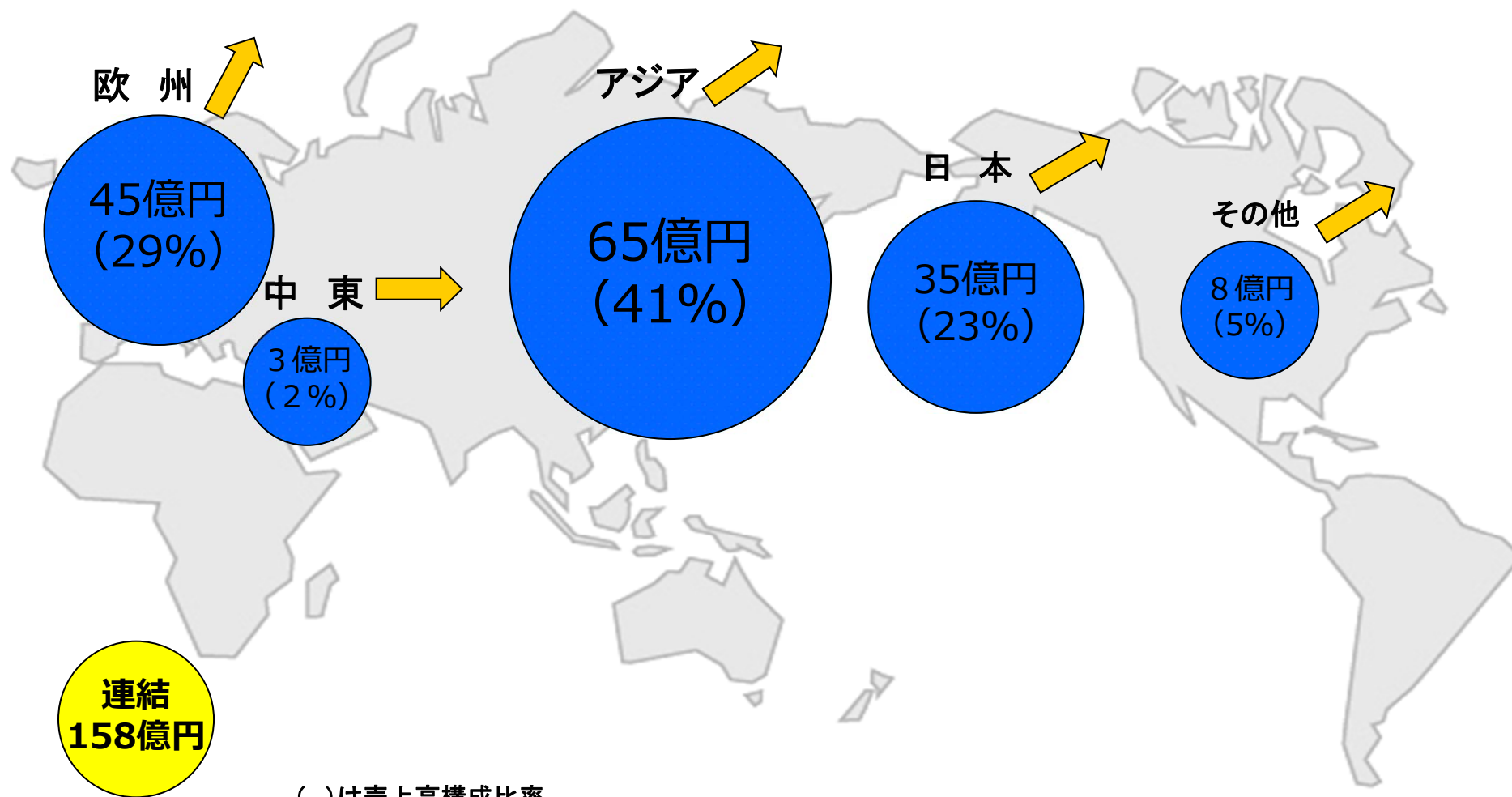
自動裁断機「P-CAM」

- ・自動裁断機のみならず、生地裁断の前後工程の省人化を実現するため、延反からラベリング、ピックアップ装置を提供。「Shima Cutting Solutions」としてアパレル業界、自動車、産業資材、など様々な業界へ浸透を図っている

当期はP-CAMの売上高比率が回復



地域別売上高構成〔連結〕（第2四半期）



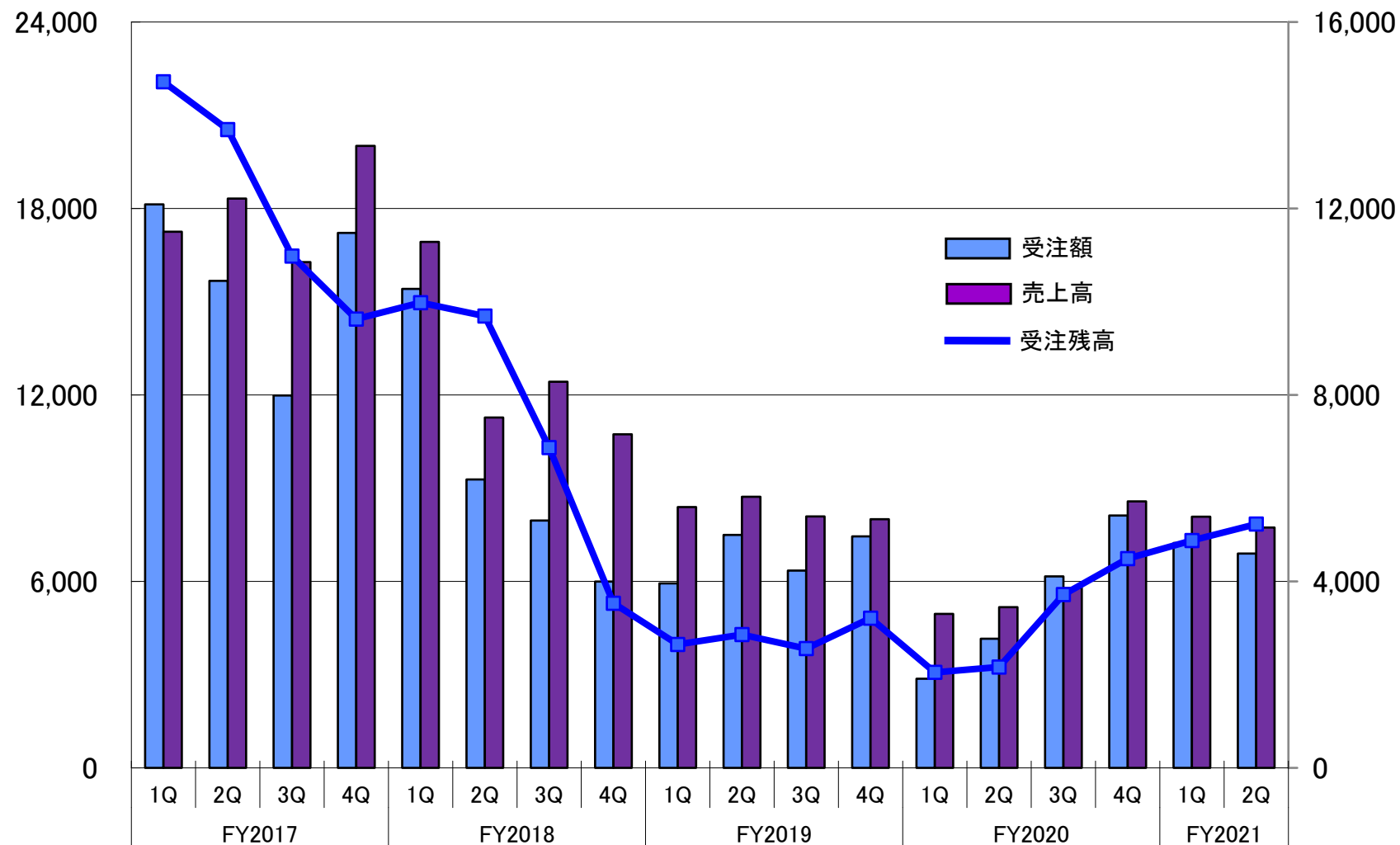
地域別売上高〔連結〕（第2四半期）

(百万円)	2022年3月期 第2四半期	2021年3月期 第2四半期	前年同期比 (%)
日 本	3,552	2,339	+51.9
欧 州	4,520	2,035	+122.1
ア ジ ア	6,546	4,817	+35.9
中 東	369	363	+1.6
その他(海外)	825	570	+44.8
合 計	15,814	10,126	+56.2

受注・売上・受注残四半期推移〔連結〕

受注・売上高(百万円)

受注残高(百万円)



四半期別業績推移〔連結〕

(百万円)	2020/3				2021/3				2022/3	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	8,393	8,724	8,089	7,998	4,954	5,171	5,787	8,574	8,081	7,733
営業利益	△872	△1,838	△1,145	△1,746	△1,970	△2,213	△2,371	△2,588	△644	△913
経常利益	△944	△1,954	△963	△1,721	△1,414	△1,721	△1,777	△2,360	△154	△689
親会社株主に 帰属する 当期純利益	△689	△1,372	△852	△5,513	△1,463	△1,745	△1,861	△12,796	△271	△797

(百万円)

受注高	5,934	7,495	6,345	7,447	2,868	4,153	6,160	8,120	7,235	6,897
受注残高	2,647	2,858	2,558	3,211	2,048	2,163	3,716	4,489	4,877	5,229

貸借対照表〔連結〕（第2四半期末）

現金及び預金 第2四半期末22,071百万円（前期末25,636百万円）で、前期末より3,565百万円減少
 売上債権 第2四半期末43,124百万円（前期末44,823百万円）で、前期末より1,698百万円減少
 棚卸資産 第2四半期末14,549百万円（前期末16,213百万円）で、前期末より1,664百万円減少
 自己資本比率 85.7%（前期末81.7%）

（百万円）	2022年3月期 （第2四半期末）	2021年3月期 期末	増減
流動資産	75,924	82,811	△6,886
固定資産	27,586	27,328	258
（有形固定資産）	16,275	16,043	232
（無形固定資産）	2,143	2,302	△158
（投資その他の資産）	9,167	8,983	184
資産合計	103,511	110,140	△6,628
流動負債	9,535	14,633	△5,098
固定負債	5,208	5,470	△262
負債合計	14,743	20,104	△5,360
株主資本	88,592	89,996	△1,403
その他の包括利益累計額	144	△0	144
新株予約権	16	23	△7
非支配株主持分	15	15	△0
純資産合計	88,768	90,036	△1,267
負債及び純資産合計	103,511	110,140	△6,628

（百万円未満切り捨て表示）

キャッシュ・フロー計算書〔連結〕

営業活動によるキャッシュ・フロー 売上債権、棚卸資産の減少により、20億79百万円の資金の増加
 投資活動によるキャッシュ・フロー 有形固定資産の取得による支出により8億63百万円の資金の減少
 財務活動によるキャッシュ・フロー 短期借入金の返済、配当金の支払いにより47億93百万円の資金の減少
 現金及び現金同等物の期末残高 前期末に比べ35億76百万円減少しました。

(百万円)

項 目	2022年3月期 第2四半期	2021年3月期 第2四半期
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,079	546
投資活動によるキャッシュ・フロー	△863	2,029
財務活動によるキャッシュ・フロー	△4,793	△3,130
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	△33
現金及び現金同等物の増減額(△減少)	△3,576	△587
現金及び現金同等物の期首残高	25,582	21,582
現金及び現金同等物の期末残高	22,006	20,995

(百万円未満切り捨て表示)

2022年3月期業績計画〔連結〕

世界的な半導体その他原材料の供給ひっ迫や国際輸送コストの高騰など事業活動に及ぼす影響が不透明であることから2021年5月7日に公表した業績予想を据え置きます。

	(百万円)		(百万円)
	2022年3月期	前年比 (%)	2021年3月期
売上高	28,000	14.3	24,489
営業利益	△7,000	—	△9,143
経常利益	△6,300	—	△7,273
親会社株主に 帰属する当期純利益	△6,400	—	△17,866

通期計画の前提 為替レート 105円/ドル 125円/ユーロ

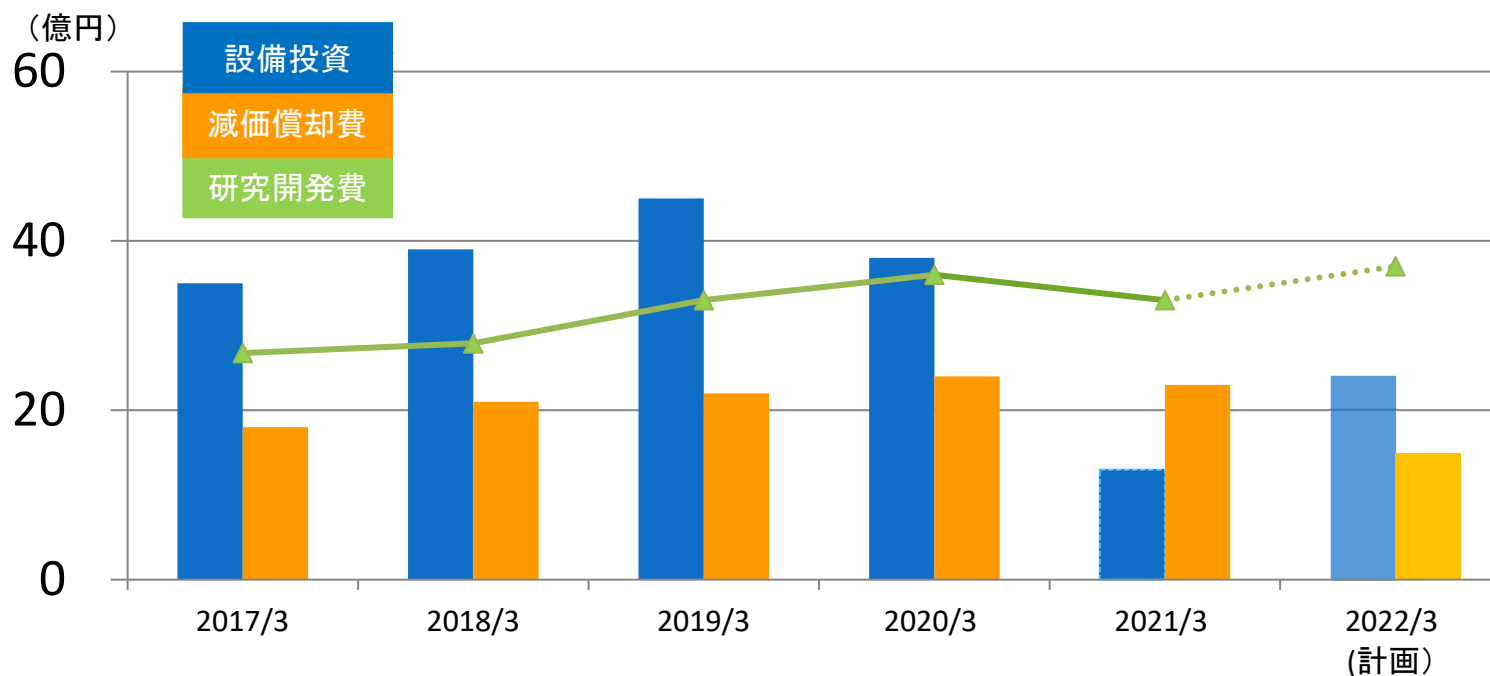
為替が1円変動した場合の営業利益への感応度 米ドル18百万円 ユーロ3百万円

研究開発費・設備投資等の推移〔連結〕

開発スピードはゆるめずに

22年3月期第2四半期（実績） 設備投資9.5億円（リース資産2.5億円含む）
減価償却費6.5億円、研究開発費17億円

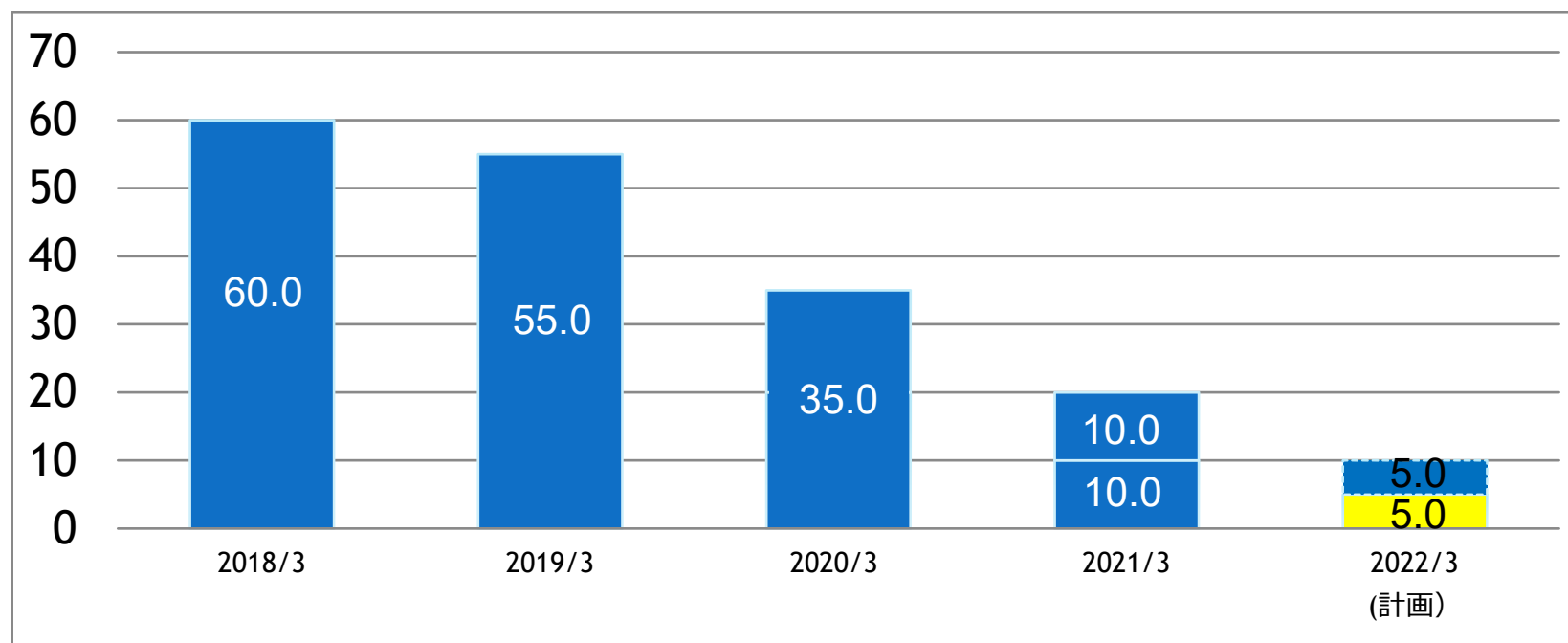
22年3月期（計画） 設備投資24億円（リース資産9億円含む）
減価償却費15億円、研究開発費37億円



株主還元

2022年3月期(計画) 中間配当金5円 期末配当金5円(予定)

(円)



外部環境と当社課題

外部環境の変化

消費者

- 人口増加等によるGDPの拡大
- 消費行動の変化
(コト消費、SDGsへの関心、SNSの普及)

サプライヤー

- スマート工場やDX化の機運の高まり
- 成型機への投資が一巡、無縫製機投資へ
- 横編機の低価格化への要望

リテラー

- コロナ禍を背景にしたEC化の加速
- SDGs対応への関心の高まり

競合他社

- 価格競争力の向上と製品ラインアップの充実
- 業界再編の動き

機会の 拡大

- 中長期での安定的なアパレル市場
- 環境変化による新たな市場の創出 (DX化やSDGs対応など)

当社課題

- [ホールガーメント] × [ソリューション] への事業構造の移行
- 顧客ニーズに応える製品の開発・供給スピードの向上
- 新たな領域での事業展開 (既存事業周辺領域など)

中期経営計画の重点施策

① ホールゲーム事業の最強化

➤ 成型機中心からW G機中心の事業構造へ

② ソリューションビジネスへの業態変換

➤ ファッション業界全体のサプライチェーン改革へ

③ 独自性を持った事業多角化の推進

➤ 早期の新事業立ち上げによる経営安定化へ

④ 社会の変化に対応した経営基盤の再構築

➤ コロナ後を見据えた経営体制へ

イノベーションファクトリー

①新工場が東京で稼働

出資比率変更(2020年12月) : 株式会社ファーストリテイリング 51%、当社49%
新工場稼働 (2021年4月) : 東京都江東区東雲

(株)ファーストリテイリング有明本部近郊に位置し、商品企画と生産とが連携できる環境で、3Dニット(ホールガーメントニット)のマザー工場として重要な役割を担う。



②ユニクロ銀座店

2021年9月18日、グローバル旗艦店である銀座店がリニューアルオープンするにあたり、サステナブルな取り組みの一つとして、ホールガーメント横編機が展示・実演されている。



(提供：株式会社ファーストリテイリング)

営業活動

ウェビナーによる情報発信の強化



ファッションテック関連（3Dバーチャルサンプリング）シリーズ展開
「サステナブルニット・ホールガーメントとは」
自動裁断機「P-CAM」関連へ拡げている。

ITMA ASIA+CITME2020（上海） 2021年6月に開催

同時期に香港にて個展 Cross Tex展を開催

ホールガーメント横編機の新機種（プロトタイプ）を紹介



サステナビリティ関連

・ 統合報告書発行

当社初の統合報告書2021（日・英）を発行（10月）



・ サステナビリティ推進室を設置

2021年7月1日付、社長直轄組織として発足

SHIMA SEIKI

本資料に記載されている当社の計画および業績の見通し、戦略などは、発表日時点において入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、様々な要因により大きく異なる可能性がありますことを、予めご承知おきください。